

Okayama Research Park Incubation Center

ORIC NEWS

翔飛

ひしよ

入居企業紹介



IRT がもたらすかつてない一体感

InterRobot Inc.

真に人に立脚した次世代コミュニケーションシステムを開発せよ！



IRT (インタロボットテクノロジー)とは、人がコミュニケーションする際にうなずきや身振りなど身体リズムを共有することに着目し、この引き込み動作を音声からリアルタイムに生成することを可能にした次世代ヒューマンインタフェース技術で、特許取得済です。この先進のヒューマンインタフェース研究から派生したIRTを導入することにより、コミュニケーションシステムはかつてない一体感を実現します。



インタロボット株式会社の開発製品例
詳細は7ページをご覧ください

— 本号の主な内容 —

開所3周年を迎えて「3年間のORICと入居企業の活動」

研修・交流会活動

トピックス

新入居者のご紹介

INFORMATION・入居案内

No.12 (2006.4)



3年間のORICと入居企業の活動

ORIC センター長 松尾 彰

この度、当センター開所から3周年を迎えることができました。この間、岡山県をはじめ(財)岡山県産業振興財団、中国経済産業局、中小企業基盤整備機構を始め多くの関係機関・企業の皆様から、ORICの事業や入居企業に対してご理解を賜り、創業・ベンチャー企業の育成に当たって暖かいご支援を頂きました。おかげさまで、ORICの活動基盤が着実に充実して参りましたこと、入居企業各社の昼夜を問わないご努力と皆様からのご支援により多くの企業が発展したこと、更に、事業計画の達成や入居期間の満了で多くの卒業企業を輩出できましたことについて、この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。この3年間のORIC及び入居企業の活動の現状について紹介させていただき、併せてORIC及び入居企業に対して、今後も更なるご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

■ORIC・入居企業の活動

1. <入居及び卒業企業数>

今年3月末に開所時からの入居企業7社が卒業して、4月1日現在の入居企業は29社になります。また卒業企業は累計で14社になります。8社が3年の入居期間を満了した後も継続審査で認められ、引続きORICで活動を行っています。この他に、2社が事業撤退で退所しています。(計画変更での早期退所は12社)

現在の入居企業の業種は、開所時同様にIT系とバイオ系が多くなっています。(表-1)

表-1 入居企業の業種と入居室数

	企業数	IT	バイオ	化学	機械	利用室数
開所時	29社	14	8	6	1	37室
現在	29社	13	7	5	4	43室

2. <創業企業数>

ORIC入居に前後して会社を設立した企業は累計で19社になります。その内、2社が事業撤退しましたが、17社が現在もORICにて活動しています。一般的に、創業企業の半数近くが、2-3年以内に撤退をすることを考慮すれば、高い生存率になっており、ORICの存在は、企業の創出と若い企業の成長に貢献しているといえます。

創業企業の入居が増えてきた為、開所当時と比べて、創業後の経過が5年未満の若い企業が増えてきています。(表-2)

3. <大学発ベンチャー>

大学発ベンチャーは、累計9社が入居、うち1社が事業発展のうえ、卒業して県内に研究所を設立しています。

4. <企業の成長>

イ) 入居中に、5社が研究室を借り増しており、一方で2社が室を減らしています。
ロ) 入居中に、事業の成長に伴い増資を実施した企業は7社で、その内1社が卒業しています。特に、設備資金を必要とするものづくり企業で、成長に伴って繰返し増資を行うことが多く、3社が1億円以上の増資を行っています。

5. <常駐者の数>

開所1年後のH.16年3月末に74名であった常駐者の数は、ORICでの入居企業の活動が活発になってきたため、H.18年3月末には103名となっています。

表-2 入居企業の創業後の経過年数

	5年未満	5~10年	10年以上
開所時	15	2	12
現在	21	2	6

6. <雇用の増加>

ORIC入居に前後して創業企業の雇用者数の合計は95人になり、入居時に雇用者20人以下の企業が入居後に増やした雇用者数6人との合計数は101人（パート社員を含む）で、10人以上雇用を増やした企業が3社現れています。また、入居時に雇用者20人以下の企業で、既に卒業した企業が17人の雇用を増やしています。今後、卒業企業が更に増え、成長することで雇用創出が進むと期待されます。（表-3）

表-3 創業及び既存・卒業企業（雇用<20人）雇用数の増加

	企業数	雇用者数	雇用増加数
入居中の創業企業	17社	95人	95人
既存企業（入居時<20人）	9社	55人	6人
卒業企業（入居時<20人）	4社	62人	17人

7. <売上高の増加>

創業企業17社の合計売上高は220百万円（1社平均13百万円）に達します。また、入居時に従業員20人以下であった企業9社の合計売上高は923百万円（1社平均103百万円）、入居時に従業員20人以下であった企業で卒業した企業4社の合計売上高は1,472百万円（1社368百万円）となっています。（表-4）

表-4 創業及び既存・卒業企業（雇用<20人）の合計売上高

	企業数	合計売上高	入居時からの増加
入居中の創業企業	17社	220百万円	220百万円
既存企業（入居時<20人）	9社	923百万円	10百万円
卒業企業（入居時<20人）	4社	1,472百万円	214百万円

8. <活発化する展示会・ビジネスマッチングへの参加>

販路開拓・資金調達を目指したビジネスマッチング等への参加は年毎に活発化しており、H.17年度は21件のマッチング会に参加した企業が累計47社になっています（H.15年度は9件で24社、H.16年度は14件で34社の実績）。H.17年度から県内の金融機関等を中心とした「ベンチャーマーケット岡山運営協議会」が開催する資金調達等のためのベンチャーマーケット岡山には発表者累計総数15社中ORICから7社が発表し、積極的資金調達を図っています。

9. <補助金等の効果的な活用>

創業後間もない企業にとっては、助成金を活用して研究開発を進めることは、財務の負担を少なくして事業を進める上で効果的です。

入居企業は、岡山県や国などの公的な助成事業に積極的に応募し、多くの案件が採択されています。（表-5）

表-5 補助金・助成策の活用

補助金・助成策の等の活用	H.16年度	H.17年度
■岡山県の補助制度 ・岡山発！オンリーワン企業育成 ・おかやま・チャレンジプロジェクト ・ITベンチャー創出・IT特区通信費補助等	8	10
■国の制度 ・経済産業省／文部科学省 ・NEDO／JST／中小企業基盤整備機構等	9	6
■岡山市	1	0
■他都府市の制度	1	1
■民間	3	1
合計	22	18

10. <マス・メディアへの掲載>

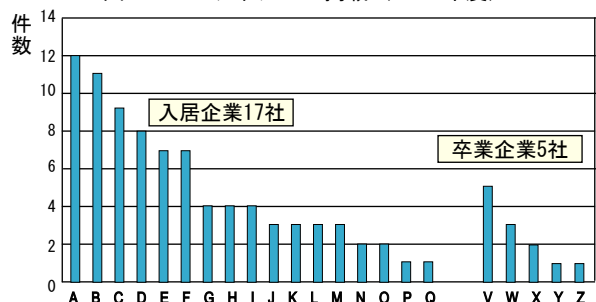
新聞、雑誌、TVなどの掲載は企業にとって製品の認知に加え、信用度の向上に大変効果的です。H.17年度は入居企業17社が地域の主要新聞を中心に全国紙を含め39件、雑誌に20件掲載されています。卒業企業では5社が新聞に7件、雑誌に3件が掲載されています。当センター関連ではそれぞれ4件づつが掲載されています。掲載数は毎年ほぼ倍増しており、ORICの入居企業の活発な活動とともに、地域の産業振興活性化への地域メディアの支援が含まれているものと考えます。（表-6）

表-6 メディアへの掲載

	H.15年度		H.16年度		H.17年度	
	新聞	雑誌	新聞	雑誌	新聞	雑誌
入居企業	0	2	9	11	39	20
卒業企業	0	1	0	1	7	3
ORIC	6	3	4	3	4	4
小計	6	6	13	15	50	27
合計	12		28		77	

（ORICスタッフルームにてコピー保管のみ）

図-1 メディアへの掲載（H.17年度）



11. <交流会・セミナーとマッチング>

毎月開催している交流会には、平均40名が参加しています。入居企業からの参加者がやや減少しているものの、外部の企業、金融機関、支援機関等からの参加者数が増加しており、参加者総数は増加傾向にあります。これらの交流等を通じて、この3年間で、ORICの入居企業間や外部企業等との提携数は、優に30件を超えており、小さいながらも企業が集積している効果が現れています。(表-7)

表-7 交流会参加者の内訳

交流会参加者	入居者	その他	ｽｯｯ・関係者	合計
H.15年度平均	27.4	4.1	6.4	37.9
H.16年度平均	24.5	9.8	5.5	39.8
H.17年度平均	23.0	13.2	5.0	41.2

12. <その他>

- ・大学発ベンチャーの創出支援を目差したプレ・インキュベーション室をH.17年度に開設し、県立大学の教官・学生が活用しました。

- ・H.17年12月に、(財)岡山県産業振興財団と岡山リサーチパークインキュベーションセンターは韓国技術ベンチャー財団と、双方のベンチャー企業の支援・活性化を図るために業務協定を結びました。また、この3月に、同業務提携をベースにした岡山県とソウル地域の交流が、JETROのLL補助事業に採択されました。

<まとめ>

この3年間のORIC及び入居企業の活動は関係各位の皆様のお陰で、比較的順調なすべり出しを示したのではないかと考えております。ORICの設置の趣旨であります「新技術新製品の開発、創業支援を通じての岡山県の産業振興への寄与」のためには、入居企業の成長に対する支援のみならず、卒業した企業が地元で拠点を構えて成長していくこと、それらの企業集積を支援することも重要です。今後とも、ORIC及び入居企業や卒業企業への暖かいご指導、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

研修・交流会活動

■ 1月度ORIC交流会・セミナー

◆入居企業紹介

「身体的コミュニケーションの未来」 インタ・ロボット(株)

インタロボット(株)吉田真章氏から企業説明がありました。(後記「入居企業紹介」欄参照)

◆ゲスト企業・機関紹介

「(独)中小企業基盤整備機構 中国支部 岡山オフィス開設と事業の紹介について」

(独)中小企業基盤整備機構中国支部岡山オフィス廣内芳宏氏より、同支部が広島県外では初めて岡山にオフィスを開設した事、同機構の事業内容の概略説明や専門家による無料相談会開催の案内など同オフィスの有効活用の依頼がありました。

◆第3回OIAセミナー

報告「韓国技術ベンチャー財団との業務提携について」

本件につきましては、飛翔(No.11)に詳しく掲載しましたが、(財)岡山県産業振興財団の理事長青井賢平氏、当ORICの松尾より平成17年12月の業務提携締結に至る経緯、その内容や今後の具体的施策について説明があり、業務提携の目的である「双方の財団及びインキュベーションセンターの交流を通じて、双方の技術集約型企業の創業、育成及び発展を促進し、両国の中小・ベンチャー産業の活性化と産業振興及び経済発展」を実現するために、今後、種々の事業展開を目指します。

「平成18年度 公的支援メニュー紹介」

中国経済産業局や岡山県、(財)岡山県産業振興財団のH.18年度の補助事業の紹介と申請をする上でのポイントを各機関から説明していただきました。

1. 「中国経済産業局の公募型実用化技術開発事業」

中国経済産業局の長谷川健二氏から以下の事業紹介やアドバイスを頂きました。

- ① 地域新生コンソーシアム研究開発事業
- ② 地域新規産業創造技術開発費補助事業
- ③ 中小企業・ベンチャー挑戦支援事業
- ④ 新連携対策事業 等・・・です。

審査では、「開発の内容」、「事業化の可能性」や「地域産業政策」の観点から評価されること。また、申請書の内容については、「テーマ名は、開発内容・技術の特徴が分ること」、「開発の要約は、どんな事業かイメージが湧くように分りやすく簡潔に」、「優位性」や「明確な事業化のスキーム」、そして「地域への貢献」等を充分配慮して書くことが大切との助言がありました。

2. 「岡山県中小企業支援制度について」

岡山県産業労働部吉原憲一郎氏より県の支援制度について①補助金、②融資、③販路開拓、④研修セミナーの4項目の支援内容について紹介がありました。

3. 「(財)岡山県産業振興財団の支援制度について」

(財)岡山県産業振興財団技術支援部本位田和昭氏及び経営支援部横田尚之氏より、新技術・新製品の研究開発事業を対象とする「岡山発！オンリーワン企業育成支援事業」などの補助事業や同財団が融資金額の一部を保証する岡山県成長支援融資制度「ジャンプ！」及び県外でのビジネスマッチングなど多岐に亘る支援メニューの紹介がありました。



交流会の様子 ▶

■ 2月度ORIC交流会・セミナー

◆入居企業紹介

「ユニバーサルデザインのソフトウェア作りについて」 (有)アイ・エス・ティ

同社が取り扱うのは、パソコンの画面上、特にホームページのユニバーサルデザインです。老若男女を問わず「分かりやすく」あるいは「利用しやすく」情報を伝達するにはどうすれば良いかを検討する上で考え出されたのが、同社が主張する「情報化のユニバーサルデザイン」です。

◆ゲスト企業・機関紹介

「おかやま信用金庫の中小企業支援について」

おかやま金庫営業推進課小倉直樹氏より同庫の「経営相談室」、「融資専担チーム」などスペシャリストによる経営支援やビジネスマッチングなどを通じてお客様の販路開拓を積極的に支援する体制が整っているとのPRがありました。

「岡山県内ベンチャー企業・SOHO東京共同オフィスのご案内」

(株)ワイ・ブレイン 代表取締役 柚木繁氏より岡山県企業が「情報収集や販路開拓のため東

京に拠点をもちたいが単独では資金負担が重く困難」との悩みを解決する為に品川周辺に共同オフィス設立の提案があり参加者の関心を集めました。

◆ORICセミナー

「人を雇うときのルール」

－法令違反、トラブルにならないための採用、契約就業規則・社会保険手続きなどの留意点について－

(独)雇用・能力開発機構 岡山センターとの共催により、(企)おかやま人事ネット 中野花都江氏(社会保険労務士、雇用・能力開発機構岡山センター「雇用管理アドバイザー」、岡山県最低賃金審議会委員)より標記テーマにて人を雇用するときの留意点として①募集・面接・採用決定時、②雇用形態と保険関係、③試用期間と労働条件、④就業規則と労働基準法などの項目について、講師の経験豊かな実例に基づいた貴重なお話がありました。参加者からの質問も活発で「雇用の手続きについて更に理解を深めた」と大変好評を博しました。

◆入居企業紹介

「次世代ソフトウェアの開発」

(株)エム・アイ

同社は、前岡山大学講師で現在東京農工大学助教授の満倉靖恵女史が専門とする「画像処理、音声情報処理、信号処理技術等」の研究開発に基づいた技術の製品化を実現するために発足した、ソフトウェアの研究開発・販売企業です。

同社の代表取締役の河村利夫氏から次の三つの技術が解り易く紹介されました。

1. 遺伝的アルゴリズムを用いた画像データ圧縮ソフトウェア
2. ニューラルネットワークを用いた高精度の画像認識ソフトウェア
3. 超小型脳波計測器を用いたユビキタス情報提示と情報圧縮

◆ゲスト企業・機関紹介

「私の起業体験とデザインの重要性について」

アップービレッジ(有)

アップービレッジ(有)代表取締役ムラカミヨシコ氏から、創業の経緯、事業拡大のきっかけ作

り、これまでの実績と経営戦略を語って頂き、経営戦略とはすなわちデザイン戦略であると、デザインの重要性について示唆に富むお話を頂きました。

◆第4回OIAセミナー

「起業家のためのデザイン戦略とは」

「インキュベータ利用時期に大切な資料づくりとその設計手法」
～いかに資料内容が相手の心へと伝わったかが何よりも大切～

これまで全国13箇所で開催の実績のあるMINATO インキュベーションセンター Vision Navigator 田原左知氏から、標記テーマでこれまで手がけてきた事例を取上げながら、経営者達のデザインに関してその短所を修正、長所を伸ばして経営戦略に生かすためのノウハウを判りやすく伝えてもらいました。重要な事は「①独りよがりな傲慢な内容でなく②悲観的で否定的な内容でもなく、③思い込みで決め付けない内容である事である。」などプロの眼で見た客観的な見方が参加者に判りやすく大好評でした。

トピックス

■岡山県と韓国・ソウル市近郊の企業交流が日本貿易振興機構(ジェトロ)LL事業に採択される

昨年12月に岡山県産業振興財団及び岡山リサーチパークインキュベーションセンターは韓国技術ベンチャー財団と双方の中小・ベンチャー企業の交流を通して両国の産業振興を図るための業務提携を行い、双方において展示会・商談会を計画しています。この岡山と韓国ソウル市とその近郊の企業交流が、2006年度の「ジェ

トロ Local to Local 産業交流事業」(ジェトロが、両国で開催する企業交流会や商談会の開催に必要な費用の一部負担やその他で交流を支援)に採択されました。ジェトロの支援で本業務提携をベースにした岡山県とソウル両地域の産業の競争力の強化や活性化の推進が更に進むものと期待されます。

■ベンチャーマーケット岡山

▶
山本社長によるプレゼン



3月27日、資金調達を希望するベンチャー企業と金融機関との出会いの場を作るビジネスプラン発表会「第4回ベンチャーマーケット岡山」が市内ホテルで開催されました。当ORICからは世界初安定型ビタミンC「プロビタC」を開発、昨年7月から販売している(株)アスコルバイオ研究所山本社長が「今後、事業を大きく伸ばすため東京進出を目指す。今回はその為の融資を希望」と話しました。今回は同社を含め県内外から4社が発表しました。



インタロボット 株式会社

代表者 代表取締役 小川浩基
 連絡先 岡山県岡山市芳賀 5303 ORIC 113号室
 TEL 086-286-9227 FAX 086-286-9228
 URL <http://www.i-robot.co.jp/>
 E-mail info@i-robot.co.jp
 従業者数 6名



◀ 受付システム

<事業概要>

- ・うなずき等の身体動作の非言語コミュニケーションによる「引き込み」機能とその効果の研究
 - 対面によるフェイス・ツー・フェイス・コミュニケーションでは話される言葉とうなずきなどの身体動作が話者のみならず聞き手とも同期する。これを「引き込み」と呼ぶ。「引き込み」はより深い意思・気持ちの交流を実現する。
- ・ロボットやコンピュータ・グラフィックスを用いた「引き込み」技術活用による次世代音声対話システムの研究開発・販売
 - i R T (インタロボットテクノロジー)

<PR・強み>

限られた条件の中でソフトとハードを含めたシステム全体の最適化に視点を置き、バランスとコストパフォーマンスに優れたシステムを提案しています。

<今後の予定・目標>

ヒューマンインタフェースの専門企業です。お互いの長所を生かした連携を希望しています。WIN-WINの関係を築き、具体的な市場をにらんで、さまざまな業種の方とのコラボレーションを進めて、自社商品の開発を進め、安定的に成長できる企業となることを目標としています。



有限会社 エイムテクノロジー

代表者 代表取締役 伊藤 浩
 連絡先 岡山県岡山市芳賀 5303 ORIC 211号室
 TEL 086-286-8211 FAX 086-286-8211
 URL <http://www.aimetech.co.jp>
 E-mail info@aimetech.co.jp
 従業者数 9名



◀ 蛍光識別計

<事業概要>

- ・半導体製造装置等のコンピュータ制御用ソフトの受託開発
- ・光学機器、レーザー応用機器の研究開発

<PR・強み>

弊社のFA事業においては、“より早く、より安く、より良く”をモットーに、多様化するニーズへの対応力を持ち備えた熟練された技術者により、開発、設計から施工、アフターサービスまで、自信をもって行っています。最近では、半導体洗浄装置、FPD搬送装置のソフト開発、施工において、国内はもとより海外からの受注も頂き、徐々に安定した受注量を確保出来るようになっていきます。

<今後の予定・目標>

光学機器、レーザー応用機器の研究開発（無侵襲血糖計／蛍光識別装置／膜厚測定装置）において、大阪府立大学との共同研究により開発を進めています。更に、貴金属貿易会社との提携により真珠膜厚測定器を近く販売していく予定です。

今後は従業員を増やしてFA事業／オプト事業のさらなる成長を目指し、新たなニーズ、顧客を開拓していきたいと考えています。加えて弊社の持つ実業務から得られたノウハウ、技術と、大学の持つ高い専門知識、それぞれの延長線上で、より独自性の高い自社製品作りをしていくことが現在の目標です。

新入居者のご紹介

3月24日に第13回入居審査会が開かれ、厳正なる審査の結果、下記1社の入居内定が発表されました。

入居内定企業名 代表者	事業の概要	所在地	分野
(有)エコライフNT研究所 入内島 一崇	■ 衛生用品・介護用品の設計・開発・販売 ■ 医療・介護・保健衛生に関するコンサルタント業務	倉敷市	ものづくり

FORMATION

優れた研究開発環境と、きめ細やかな支援のもとで、
あなたの新製品・新技術を開発して、夢を実現しませんか。

入居希望者募集中

- ・センターに常駐するインキュベーションマネージャーがご支援します。
- ・常時接続のインターネットを無料でご利用いただけます。
- ・安価な費用で施設をご利用いただけます。
(実験台が整備された研究室もあります。)

■施設使用料

創業5年未満の企業は入居後3年間は1/2に減免する制度があります

施設区分	面積	部屋数	使用料の月額
研究室 小	約 25 m ²	22	45,000円
研究室 大	約 50 m ²	30	88,000円
試作開発室	約 100 m ²	6	175,000円
プレインキュベーション室	6ブース (5m ² /1ブース)		5,000円

■募集概要

対象：情報通信やものづくりを中心に新技術・新製品の開発、創業を目指す個人・グループ・企業。

期間：3年以内（再申請もできます）

審査：入居にあたり、審査があります。



随時、入居のご相談に応じていますので、
ご連絡下さい。(TEL. 086-286-9116)

■次回募集

原則として3ヶ月毎に入居者審査会を開催しています。
次回は5月末までに事業計画書を提出された方を対象に、
6月中に開催の予定です。

(参考)【入居可能研究室】(2006年4月時点の予定)

研究室小 (25m²) : 3室

研究室大 (50m²) : 9室

試作開発室 (100m²) : 3室

※プレインキュベーション室の募集は随時受け付けています。
(大学の関係者に限ります。)

詳細はORICホームページをご覧ください。

<http://www.oric.ne.jp>

